死海写本研究（五）

～249.4Qpap cryptA Midrash Sefer Moshe～

大串 元亮

4Q MSM, 4Q249, the Midrash Sefer Moshe (MSM) とは、「謎のA」と呼ばれている難解な文書の中にあるクムラン出土の文書のひとつである。巻物の背中に検索を容易にするため表題が書かれている文書が5つあるが本書はそのひとつである。本文書の背中には、メドリッシュ・スファ・メルシャとある。

「共同体の規則」(IQS) によれば、メドリッシュ・ホラオハは、クムラン共同体がそもそも発足した目標である荒野で道を備える、その道を意味している。

この「道」(דָּוְד) とは神がモーセにより命じられ、それは預言者が聖霊によって啓示しているところの「律法」の解釈（メドリッシュ・ホラオハ）である。(IQS VIII 12-15) 「道を備えよ」との召しの声はホラオハの絶えざる探求によって実現されるはずであると理解されていた。いつでも少なくとも誰か一人共同体のメンバーによって遂行されるべきであると考えられていた。「十人がいるところでは、夜も昼も絶えず、常に一人、律法を研究する者ホラオハがいなくてはならない」(IQS VI 6-7)。もっと大きい共同体では年中三晩毎に一回ホラオハのため集まった。(IQS VI 7-8)。これらの集会の参加者のための規則や義務は、「共同体の規則」の中に詳しく述べられている (IQS VI 8-13 VII 10-13 24 VII 20 IX 2)。

Midrash ha-Torah (MhT) は、これらの夜の集会の過程や、その結果を表す言葉である。

このMidrashという用語は第二神殿時代の他の著作物の表題にも用いられたという事実があり、それはMhTが単なる過程ではなく、最終形態としての「文書」であったことを想定させるに十分である（代下24, 27「列
§ 形態と構成

共同体のメンバー間で生じた疑問を巡り、討論が交わされらしい。このMSMは最初は共同体生活の具体的問題を扱い、後に主題別に順序をつけて書き改められたようである。

 Haramaから引用された法的規定を解説している個所を検討すると、あるパターンが浮かびあがって来る。

1. ひとつのパラグラフが終わり、そこに空欄vacatがあって、次のパラグラフへ段差がつけられている。（断片1, 5, 2, 4, 13, 4）

2. 各パラグラフは「と書かれている」 오늘만ハツォという導入句のついた引用で始まる。

3. そこに引用されたヘラマンの言葉は、そっくりそのままの引用かどうかは証拠がない。短い章句の引用が長い文とつながっている。この形態が用いられている。このFormがトーラー解釈に権威を与えた。この解釈原理がある法に適用されると、その法は「法的決定」משימטセットと呼ばれた。
死海写本研究 (五)

vacat

כיאשר חתוב

vacat

כיאשר חתוב

vacat

§ 書体と年代と外見

4Q249の年代は、表題の字体と炭素14法により同定することができる。字体
からは第二世紀中葉BCE。炭素14法によれば、4QMSMの年代は191－90BCE
と推定される。いずれにしても4QMSMは、共同体が作成した写本の中でも最
も古いもののひとつであると言えよう。

4QMSMは羊皮紙ではなく、バビルスに書かれている。バビルスの色は、黄色と
色褪せた茶色の部分がある。インクは個所により差はあるが、暗い灰色である。

§ 4 Q249 col.1 (Frags.1-4,9a,9b i,12)の試験的再構成と試訳

ת

מקרא

כיאשר חתוב יודת מבית מלך על נשכת התפורה
כיא המקראות וירכקת על התפורה
מהות הורכקת ואידמות
קפוצי בלחץ ואותמה מחון הוצר
מכות סקור
את הערפה את האבנים ואת העציים
אמ
אוחר חלץ את האבונים
ишוב תngen עלית ונתן את הבת
כז אלשר את בנות
11 石を取り去った後に
12 石がまた家に戻ったなら、
13 家の中に石がないこと
14 それが同じ石の決定である。

ホームで
15 マイの魚は死ぬ。
§ 再構成のための考察

この欄にみられる語彙は、衣服と家の皮膚病を扱っているレビ記14章と平行していると見てよいだろう。
5 の再構成には、エレミヤ36, 12 が参考になる。

偽りが家にあれば、それは不浄の移動の原理に従って各部屋に広がって行く。

Aussatz (NEB), Ich lege einen schlimmen Ausschlag (悪性のできもの ATD6 Gerstenberger), une tache de leper（ハンセン病 またはかびの斑な染み TOB）。4Q249 の＊かびは意訳。
ここは「家を倒す」と直すことも出来る。

「家の周りをぐるりと」。通常「ひっかく、こする」場合だけに用いられる。家の周りの土だけでなく、「周りの石」も除くことを意味する。

レビ記14, 40 - 45参照。著者の関心は家の中のかびである。

この行は、積れた家から運びだされたが、それ自体にはかびが生じてはいない石材や他の材料をどう扱うべきかを述べているらしい。

この成句は、律法とその規則の公平と不変性が強調されている他の文脈のなかで用いられている。民数記15, 16。「あなたたちも、あなたたちのもとに寄留する者も、同一の指示、同一の法に従わねばならない。」

この行は五書の証拠章節で始まる。出エジプト記7, 18 ナイル川をモーセが杖で打つと、なかの魚は死ぬ。それと同じように、家がかびで積れると、そのなかにあるものもすべてかびで汚される。

再構成された文を直訳すると、「そしてもし室内で」となるが、訳では「もしも家の奥まで」とした。

詩編105, 30 in the chambers of their kings [王宮の奥]「共」は比喻的に人の心の内側の最も深い所について、「奥」、「隅」と表現出来る。

箴言18, 8 這い下って行く」(共) 26, 22 も同じ。23 「偽り」、「背信」(BDB)。この言葉とȘkidpa (Frag. 11a L2), Khanah (Frg8 L2) [嫉妬] がこの文書ではほとんど同義で用いられている。クムラン文書の中で跆は20回、Șkidpaは30回、Khanahは6回、現れる。罪、悪徳、罪過を表す主要な形態である。邪悪な心から生じる産物であり、神の審を受けるなければならない。(IQS IV 12 - 14)。
§ 4QMSM の神学

1）行為・結果図式
ある種の罪が、ハンセン病状態を取り起こす。悩める人が肉体的に癒され、祭儀的に処理されるためには、彼はその罪を悔い改めねばならない（ヨブの友人たちの立場！）。
2）感染＝不浄の移動の原理
レビ記14章ではかびが家屋全体に広がり、汚すのを食い止める方法が指示されている。
しかし4QMSMでは、かびの感染が、文字通りではなく、形態的・象徴的に転義され、倫理的・社会的罪が、共同体の成員同士の関係を破壊し、ひいては共同体全体を堕落させる危険性として理解し、警告している。
3）罪の性格
4QMSMyrıcaある罪はプネハ、רימיה、שקרであり、いずれも偽り、背信、嫉妬といった内面的罪である。ユダヤ教・ラビ文献と比較するとこれが明らかとなる。むしろ新約聖書に近いかもしれない。1コリント13、4−7参照。
4）Sitz im Leben
4QMSMのSitz im Lebenは、明らかにクムラン共同体の共同体形成への教育・訓練活動である。ここでは法的裁判や祭儀的処罰は問題になっていない。
倫理的・道徳的に共同体のレベル・アップを目指すマニュアルが作成されたのである。
5）新約聖書との比較
イエスは罪と病気との直接的因果関係を否定された。当時のユダヤ的環境の中で神の導きと人の運命について独自の自由な立場をとり、難病に苦しむ人に希望の光をお与えになった（ヨハネによる福音書9、1以下。）
しかし、間違った教理や不道徳が、まるでカビのように感染力がある、と警告している。
（マタイ16、6、11）。また逆に天の国発展力をパン種にたとえられた（13、33）
このようなイエスの表現の背景に4QSMを生み出したユダヤ的土壌が想定される。

参考文献
S.Pfann, 249. 4Qpap cryptA Midrash Sefer Moshe, in: DISCOVERIES IN THE JUDAEAN DESERT XXXV 1999 1-24